

■ 基調講演 「データ×AI時代の知的財産権の最新動向」



福井 健策 氏
(骨董通り法律事務所 弁護士)

弁護士(日本・ニューヨーク州) / 日本大学芸術学部・神戸大学大学院 客員教授
1991年 東京大学法学部卒。米国コロンビア大学法学修士。
現在、骨董通り法律事務所 代表パートナー。「著作権の世紀」「誰が『知』を独占するのか」
(集英社新書)、「『ネットの自由』vs.著作権」(光文社新書)、「18歳の著作権入門」
(ちくまプリマー新書)、「AIがつなげる社会」(弘文堂)ほか。国会図書館審議会会長代理、
内閣知財本部など委員を務める。

■ 事業案内



織田 好和
(東京都知的財産総合センター 所長)

1975年東京理科大学卒、同年株式会社東芝入社、知的財産部配属
株式会社東芝総合研究所知的財産担当部長、
東芝テクノセンター株式会社常務取締役などを経て、現職

■ 事例解説 「悪意の商標出願に関する事例」

モデレーター



遠藤 誠 氏
(BLJ法律事務所 代表弁護士)

1998年 弁護士登録
2002年 米国シアトルのワシントン大学ロースクール(LL.M.)を修了
2004年 神戸大学大学院法学研究科博士後期課程を修了

2003年1月以降、東京の大手法律事務所に勤務し、中国を中心とする渉外案件及び知財
案件を主に取り扱う。とくに2006年から2011年までの間は同事務所の北京代表処に常駐し、
日本企業・日系企業の中国ビジネスを法務面からサポート。
2013年4月に独立して「BLJ法律事務所」を開設。日中間の知的財産法務等を中心としつつ、
日本におけるビジネス・ロー(“Business Law in Japan”)の拠点となるべく、企業法務全般
を取り扱っている。
最新著作として、「中国における技術標準と特許をめぐる最新動向と日本企業の戦略」(日本
機械輸出組合、2018年刊)がある。現在、「世界の法制度」(『国際商事法務』所収)、
「世界の知的財産法」(『特許ニュース』所収)を連載中。

パネリスト

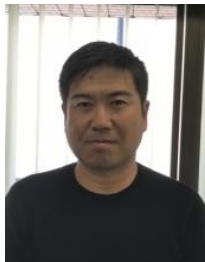


張 青華 氏
(天達共和律師事務所 弁護士)

1990年代初めから、中国の改革開放期間中、外国企業による中国投資業務に多く携わり、
中国国内における外国企業による外商投資企業の設立を数多くサポートしたほか、企業
の法律顧問として長期間にわたり活躍している。
2000年以降、業務の発展に伴い、知的財産権の分野で多くの外国企業の知的財産権
保護に関する業務を手がけた。これには、商標及び特許の行政並びに民事訴訟、交渉、調
査及び出願等を含む。また、企業の職務発明規則の制定及び商標や特許の使用許諾契
約の締結、交渉などの専門にわたる豊富な経験を積んでいる。

■ 事例解説 「悪意の商標出願に関する事例」

パネリスト



増田 修司 氏
(株式会社レアナニ 代表取締役社長)

1974年 埼玉生まれ
1992年 國學院大學栃木高等学校卒業
1996年 國學院大學卒業
2006年 株式会社ユナイテッドエフ・ビー・エス設立
2012年 株式会社ユナイテッドエフ・ビー・エスのレアナニ事業部を分離し、株式会社レアナニを設立



岡野 浩明 氏
(株式会社マックス 取締役)

立教大学大学院博士課程前期課程修了。修士（経営管理学）。大手ハウスメーカーなどを経て1999年現株式会社マックス入社、社長室長。2004年執行役員法務・コーポレートガバナンス。2011年、当社商品の模倣品が中国の展示会で発見されたことから、翌2012年管理部内に法務知的財産課（現法務知的財産部）を専任部署として設置。海外模倣品対策では、知財センターのアドバイザーや弁理士と連携し、東京税関及び主要国税関での水際措置、中国モール運営企業への継続的な模倣品削除請求などの手法を使い、日本、米国、欧州市場を守ることに成功。2012年-2017年知財戦略委員会委員長。2015年9月から現職。



荒井 英樹
(東京都知的財産総合センター知財戦略アドバイザー)

東北大学工学部卒業
住友セメント株式会社入社
・技術開発部（セメントプラントの設計開発）
・SRI International, Material Division 研究員
・中央研究所（SiCナノ粒子合成技術(CVD)、用途開発、特許戦略）
・新材料事業部（MIM（機能性金属部品）事業化、ライセンス交渉（米国）、半導体製造装置部品の事業化、技術法務）
・新規技術研究所 副所長（研究開発戦略、知財戦略、研究開発・知財管理）
・知的財産部長などを歴任

2年間、東北大学大学院工学研究科 非常勤講師を務める。（ナノ技術、知的財産）
2015年4月 東京都知的財産総合センター 知財戦略アドバイザー-就任